

先生の活用としては、分かりやすい情報提示、思考を促す情報提示など、授業設計・板書計画とともに考えて使います。例えば、書画カメラ（OHC、実物投影機）は、ノートや教科書を大きく映してみせるだけでなく、写真のような書写や、包丁やカッターの使い方など、児童生徒を見ながら、説明できる使い方が可能です。

また、比べて表示する方法もあります。プロジェクタで体の構造を教師自らの身体に投影して、わかりやすく紹介する方法もあります。



書写での活用（筆の使い方）



昔と今の空撮写真を比較

針の使い方を説明する際、動画で準備しておく、教師は、一度手本を示した後は、全体への説明として繰り返し動画を再生しておき、個別指導に回るといった使い方もあるでしょう。



内臓のプロジェクションを教師の服にマッピング



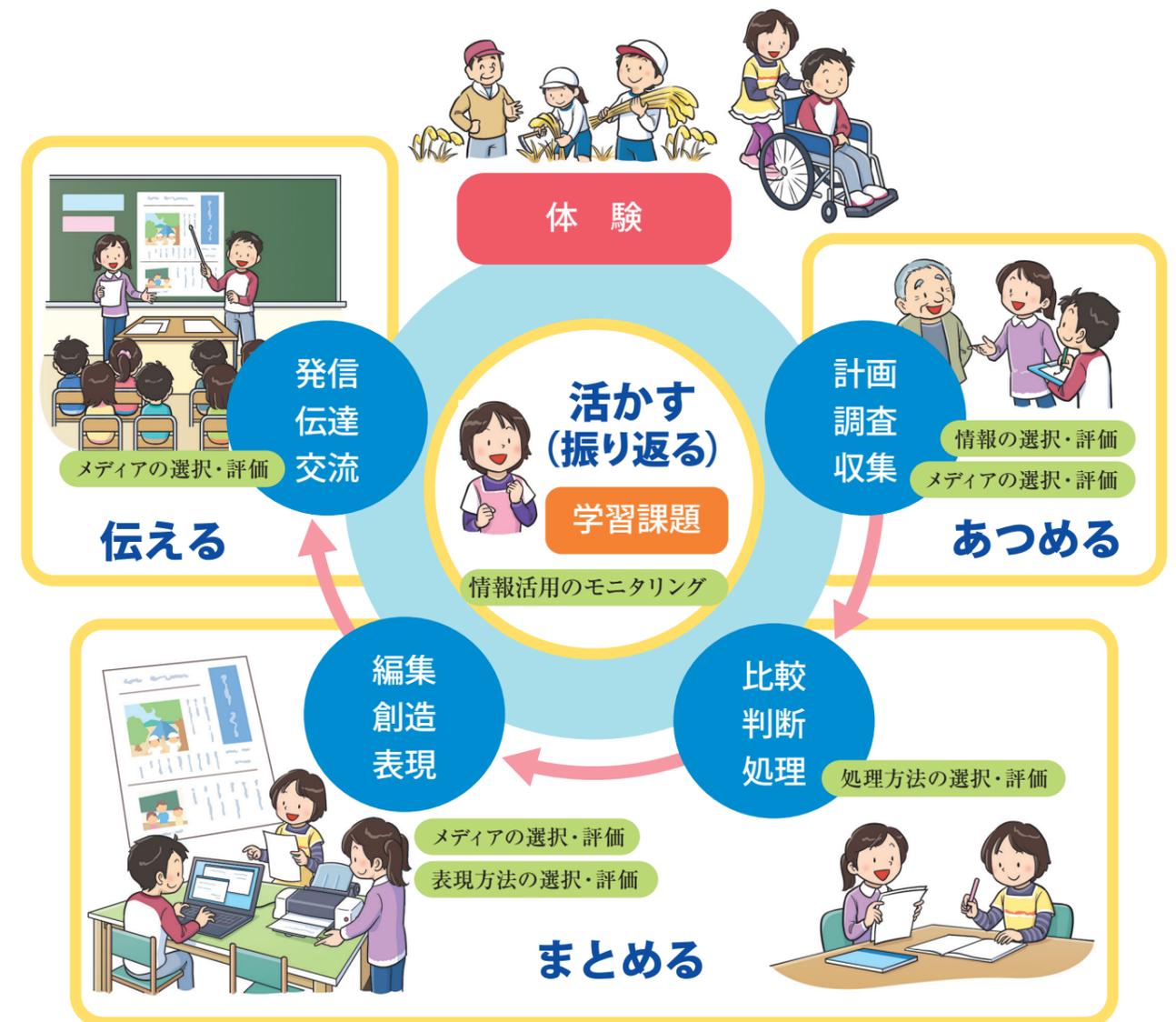
動画利用と机間巡視による個別指導

ICT活用指導力向上

子どもたちの情報活用能力を育成するために

次期学習指導要領では、学習の基盤の能力として、言語能力、問題発見・解決能力とともに、情報活用能力（情報モラルを含む）を育むことが明記されました。

このパンフレットでは、児童生徒の情報活用能力を育むための学習活動の場面を、あつめる・まとめる・伝える・活かす（振り返る）という視点で整理してみました。詳細は是非、「教員養成・研修テキスト（情報教育）—ICT活用指導力UPのためのハンドブック—」（裏表紙）をご覧ください。



教員養成・研修テキスト（情報教育）—ICT活用指導力UPのためのハンドブック—

- 1 「学校教育の情報化」と学習指導要領
- 2 情報教育
- 3 各教科指導等におけるICT活用
- 4 情報モラル教育
- 5 ICTを活用した授業のための指導力の向上
- 6 校務の情報化



〈全260ページ〉

<https://jisedai.nara-edu.ac.jp/>

あつめる

小学校段階より、課題や目的に応じて様々な情報手段を用いて文字や画像、音声などの情報を調べたり比較したりするなどの情報の収集活動をしていきます。

例えば、工場見学や季節を感じる活動などで気づいたことをメモするとともに、気づいたことを伝えるためにカメラやタブレットで撮影しておく、学校に帰ってから班活動やクラス全体で確認したり、まとめる資料をつくる際の素材となるでしょう。



カメラで接写

また、インタビュー時に、ICレコーダーで録音しておく、後から聞きなおすことができますし、ビデオカメラで撮影しておく、話して頂いた方の表情や様子も含めて、伝える素材として活用できるでしょう。



地域のパン屋さん取材にいった際にカメラで撮影



資料集や電子辞書を使った調べ活動

まとめる

収集した情報は、伝えたい相手に応じて、壁新聞やリーフレット、パンフレット、報告書、論文などいろいろな形式でまとめます。

まとめる方法の一つであるビデオ制作では、ニュース番組作りなどの経験を通じて、情報の適切な取捨選択や効果的な言語表現、見せる情報と言葉で述べる情報の組み合わせ方など、受け手に伝わる映像にするために、録画や編集、見返して検討などを繰り返して作成します。



←インタビューしている様子
↓確認しながら編集作業



取材した情報を確認しながらまとめる様子



壁新聞の作成

伝える

学校では、まとめた資料をもとに、伝えたい相手に伝えるために、様々な手段を使うことで、伝える力の向上を目指して取り組みます。

指示棒などで視線を誘導しながら話すことや、聞き手の様子を確認しながら話すというスキルの獲得も必要でしょう。また、テレビ電話越しに他の地域と交流することで、クラス内では通じた言い回しが伝わらない経験から、相手に応じた伝え方を意識することになるでしょう。



タブレットで提示した資料を見せながら発表



テレビ電話を使って、離れた地域の学校と、作った作品を紹介しあう様子



取材した「地域のお店の工夫」を提示情報をもせながら発表

グラフにまとめた資料を提示してクラスメイトに発表



海外の学校と、英語による地域紹介交流

活かす(振り返る)

教師は、児童生徒自身の活動を意識させることで、学んだことを定着させたり、より向上させることを狙った「振り返り」活動を学習計画に組み入れています。自分自身で「できた」を確認できる力の獲得を目指して、視点を決めて相互評価活動をおこなっていきます。



他者の感想文をよんでいる様子



相互評価している様子(先生の説明)



↑クリックャーによる「相互評価(話し方)」

←スピーチを聞いてタイトルを想像(よく聞く)



自分の演奏の様子をビデオで撮影し、あとで振り返る